

(令和3年11月試験研究業務月報)

試験研究課題：開発農地における新規作物の導入

(3)秋期畝立てマルチ越年春作付け-初夏出荷体型を実現する施肥技術の検討

研究

## 秋期に施肥と畝<sup>うね</sup>立て、春に作付けするハクサイの施肥法を検討

丹後地域の国営開発農地では加工契約野菜の導入が推進されており、新たに漬け物等向けハクサイの作付けが開始されています。しかし、3月下旬～4月上旬に定植する初夏どりハクサイの場合、1月～3月中旬は積雪や融雪水の影響で定植前の作業が困難な場合があります。

そこで、肥効調節型肥料等を利用し、秋期に畝<sup>うね</sup>立てと基肥<sup>もとごえ</sup>全量施肥を行う施肥法を検討しています。

本年度春の試験結果から、この施肥法に適した肥料の絞り込みを行い、来春の定植に向けた施肥・畝<sup>うね</sup>立て・マルチを実施しました。同時に、畝<sup>うね</sup>内に分析用の肥料を埋設しました。今後、埋設した肥料を定期的に掘り出し、肥料成分の溶出量を調べます。



地温測定用センサを設置

一定量の肥料をお茶パックに詰めて埋設します



掘り出した肥料の全窒素分析（ケルダール法）